

# 大学の新たな連携先としての社会福祉法人の可能性の考察

## － 野のはなハウスを事例として －

大阪市立大学 商学部商学科3年

妹尾 亮汰

### 1.野のはなハウス

大阪市立大学学術情報総合センター1階に位置するイタリアンレストラン。本格的な料理をリーズナブルに楽しむことができ、学生・教職員・市民の憩いの場となっている。



	営業時間	運営主体
南食堂	平日 11:00-19:30	大学生協
北食堂	平日 8:00-14:30	大学生協
めたせこいあ	平日 11:00-14:30	大学生協
野のはなハウス	平日 9:00-21:00 土曜日 10:00-19:00	社会福祉法人

野のはなハウスの運営主体は社会福祉法人「野のはな」であり、大学内食堂事業を行っている唯一の社会福祉法人である。

### 2.野のはなハウス開業の経緯と現在

当初、学術情報総合センター1階の食堂は大学生協が運営していた。しかし、毎年赤字を計上しており、大学生協運営への負担となっていた。

その為2013年に閉店することとなり、大学側は同食堂事業運営主体の公募を開始した。その公募に応じた候補の一つが「野のはな」であり、最終的に事業運営主体に抜擢されることとなった。

開業して以来、野のはなハウスは黒字経営を続けている。

### 3.大学との連携

野のはなハウスを開業する上で、「野のはな」の理事と大阪市立大学生活科学研究科（食健康科学・人間福祉科学）の講師陣は、複数回に渡って会議を行った。

「野のはな」は大学食堂事業のノウハウが無かった。そのため、メニュー内容や価格設定などを大学側と検討する必要があったためである。

また、店舗の外装および内装は生活科学部の学生のアイデアを基にデザインされ、野のはなハウスという名称も学生の公募によって決定されたものである。

### 4.事例の考察

#### (1) なぜ「野のはな」は公募に応じたのか

- ・野のはなの母体が消費生活協同組合であったことにより、大学生協と消費生活協同組合を繋ぐネットワークがあったため
- ・同社会福祉法人は理念的に障害者の就労支援の幅を広げることを目的とし、新規事業開拓の精神を内包していたため

#### (2) なぜ野のはなハウスが現在も継続して黒字経営を行えているのか

- ・大学側との会議を綿密に行ったため
- ・事業を行う上で国からの補助があるため
- ・野のはなハウスをあくまで「飲食事業」として捉えており、料理の質や顧客サービスを追求しているため

### 5.今後の展望

運営主体の倒産によって杏林大学の学生食堂が閉店したというニュースもあったように、学生食堂は常に運営を続けられる状況ではなくなっている。

そこで学生食堂事業の新たな担い手としての社会福祉法人の可能性を、今後検討する必要があるのではないだろうか。